

学校運営連絡協議会 評価委員長

横浜国立大学

教授 渡部 匡隆

## 〈総評〉

### 1. 回収率について

令和5年度学校評価アンケートは、令和4年度よりも質問項目数を減らし(13項目から10項目)、内容も精選した。実施方法は、令和4年度に続きインターネット(フォーム)での回答を主としながら質問紙による回答も選択できるようにした。

児童・生徒アンケートの回収数は令和4年度とほぼ同数であった。児童・生徒の意見は、目指す学校像の実現に大きな手がかりとなるだけでなく、児童・生徒にとっても意思表示の学びの機会となる。アンケート回収方法について、一人1台タブレット端末を使って、自分で回答できる児童・生徒もいたこともあり、次年度以降もタブレット端末を使って選択式で回答できる方法にも取り組んでほしい。合わせて、回収率がほぼ変わらなかった要因について、不登校等の要因によって実施することができなかつたのか、あるいは理解や表出の困難さから取り組もうとしたものの取り組みなかつたのか分析を行い、できるだけ多くの児童・生徒からアンケートを回収できるようにしてほしい。

保護者、教職員の回収率は74%と100%であった。令和4年度に続き全教職員から回答が得られ、また保護者の回収率は15ポイント増加した。保護者の教育活動への参画は、児童・生徒の発達支援に重要な意味をもつことから、回収率が向上したことは良い傾向である。回答内容、回答への呼びかけの取り組みの成果がでたと考えられる。引き続き回収率向上に向けて取り組みを続けてほしい。

### 2. 全体的な回答傾向について

#### (1) 保護者・教職員

保護者の回答について、満足が8割以上が5項目(Q1「児童・生徒の人権に配慮し、児童・生徒が自分らしく成長していくための学びの実現」、Q2「学校だよりや学校ホームページを充実」、Q4「各学習の目標やねらい、評価規準(3観点評価)を明確にする取組」、Q5「4S活動の推進」Q8「安全に関する取組」、7割台が2項目(Q3「研究活動(授業改善)の充実」、Q9「感染症対策」)、6割以下が3項目(Q6「授業等におけるICT機器の活用の推進」、Q7「具体的な健康課題に関する取組」、Q10「教職員のライフ・ワーク・バランス推進のための対策」)であった。

教職員の回答は、10の質問項目のうち9項目で満足が7割を超えていた。7割を下回る項目は、Q10「教職員のライフ・ワーク・バランスの推進」であった。令和4年度と同じ質問項目ではないため直ちに結果を比較することはできないが、教職員から令和4年度に続き、高い評価が得られた。自らの仕事や職場に高い満足感をもっていること、効果的な組織づくりやチームづくりが進んでいることが伺える。一方、「教職員のライフ・ワーク・バランスの推進」についての満足は61%であった。その一因として、コロナ渦以前と同等規模の行事等の再開も影響していると考えられる。教職員の働き方改革は難しく大きなチャレンジであるが、満足が教職員の61%である要因を分析し、都や国をリードする取り組みを期待したい。

保護者、教職員アンケートから総じて高い評価が得られていることから、引き続き、現在の学校運営を積極的に推進することを期待する。その際、次の点について留意してほしい。選択肢での回答において「判断できない」、自由記述において「評価することが難しい」「自分の子供がどう取り組んでいるかわからない」といった意見があった。

例えば、ICTを活用した指導について、教職員はその考え方を理解し、担当する児童・生徒一人一人に自分らしさや自分らしく成長する姿を描き、その実現のための教育実践に取り組んでいる。そして、その手応えや可能性を大きく感じているかもしれない。ところが、保護者は、「授業等におけるICT機器の活用」「具体的な健康課題に関する取組」「教職員のライフ・ワーク・バランス推進のための対策」等が見えづらく、また、心理的距離があり、それらの取組みがわが子とどのようにつながるのか、わが子にどんな良さや効果をもたらすのかイメージをもちにくいことが考えられる。そのことが、「判断できない」といった記述となっているかもしれない。

それらを改善する方法として、例えば、健康問題や性に関する研修を保護者も参加して実施するといったことや、取組をホームページ、学校便り、学年便りで発信することに加えて、保護者が学校に訪れる機会や個別面談等の機会において担任から保護者に発信するといったことが考えられる。授業におけるICT機器活用や健康課題に関する取組を個々の児童・生徒にどのように教育実践しているか実践的に、しかも、児童生徒に身近な存在である担任から伝えることで、より活用や取組を身近に感じられるかもしれない。

もしかすると、「先生とたくさん遊べるようになった」と帰宅後に児童が保護者に報告することがあると、教職員のワーク・ライフ・バランスが推進されていると保護者が肌で感じるかもしれない。教職員のワーク・ライフ・バランスの推進のメリットを児童・生徒や保護者が具体的に認識できることも働き方改革を推し進める大きな援護となる。保護者からの回収率の更なる増加とともに、「判断できない」という回答を少しでも減らすように取組みを進めてほしい。

## (2) 児童・生徒

児童・生徒が、自分には「好きな授業や教科がある」と自信をもって表明できることは、とてもすばらしく、価値がある。84%を超える児童・生徒が「好きな授業や教科がある」と回答した現在の教育活動を高く評価したい。今後、この成果を持続・向上していくために、なぜ好きなのか、どのような活動や取組み方を児童・生徒が評価しているのか把握・分析し、それらを保護者と共有しながら、質の高い教育活動を継承・発展してほしい。

一方、嫌い・苦手な授業や活動があるという回答が2.6%だがみられていた。得意、不得意、得手、不得手があることは当然のことである。だからこそ、それぞれの持ち味があり、個性になると考える。ただし、児童・生徒の実態として基礎・基本となることを学ぶことにもかなりのハンディキャップがあったり、十分に学べないことで自立と社会参加、さらには自分らしく豊かに生活することのバリアーとなったりすることは望ましいものではない。一人一人の実態把握、アセスメントを丁寧に行うとともに、嫌い、苦手さをもたらしている環境要因を分析し、児童・生徒が「授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていく」ための不断の授業改善を進めてほしい。

すべての児童・生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりや行事のあり方について、保護者、地域が一体となってそれらの取組みを支えていけるように学校運営連絡協議会も役割を果たしていきたい。

## 〈各項目について〉

1 児童・生徒の人権に配慮し、児童・生徒が自分らしく成長していくための学び(QOLの向上につながる学び)の実現を目指した教育を推進しました。

・児童・生徒が意欲的に授業に参加している姿がありました。引き続き、東京型教育モデルを推進し、児童・生徒のQOLの向上を目指してください。

2 学校だよりや学校ホームページを充実させ、本校の教育方針や取組内容等を分かりやすく周知しました。

・学校だよりの用紙サイズを拡大や、学校ホームページの情報の更新の速さといった工夫を継続し、今後も迅速で分かりやすい情報発信をお願いします。

3 「児童・生徒が自分らしく成長していくための学び」を実現するために、研究活動（授業改善）の充実を図りました。

・児童・生徒が自分らしく成長することを実現するため、個々の実態に応じた指導の充実に向けて研究活動を継続し、授業改善を進めてください。

4 個別指導計画において、各学習の目標やねらい、評価規準（3観点評価）を明確にし、各家庭への説明を行い、課題の共有化に努めました。

・今後も継続して個別指導計画の評価基準（3 観点評価）を明確化させることで児童・生徒の自分らしい成長につなげていくようにお願いします。

5 「4S（整理、整頓、清潔、清掃）」活動を継続的に推進し、安全・安心な学校づくりに努めました。

・以前からの取り組みが校内に浸透し、あたりまえのこのように定着してきていると評価できます。今後も自立的な活動として継続していくようにお願いします。

6 各授業において、児童・生徒の学びを深めるために、GIGA端末やスマートスクール端末（タブレット端末）の効果的な活用を推進しました。

・児童・生徒の学習や生活の充実に ICT 機器をどのように活用していくのか、授業の中でどのように生かしていくのか、保護者により分かりやすく周知をしながら学校として継続的に取り組んでいくようにお願いします。

7 学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健所等と連携し、具体的な健康課題（感染症予防、歯と口の健康づくり、性教育、がん教育、SOS の出し方に関する教育、体力向上に関する取組等）に関する取組を実施しました。

・昨年に引き続き、高等部で実施した SOS の出し方に関する特別授業は、生徒にとって有意義であり学習内容が浸透してきていると感じます。今後も保健所等の外部機関との連携を積極的に進めながら、健康問題についても児童・生徒から相談できる体制の整備や、児童・生徒も自分から健康づくりに取り組もうとする態度を育むようにしてください。

8 警察署や消防署、地域の企業等の関係機関及び各家庭と連携し、生活安全、交通安全、災害安全に関する取組を実施しました。

・関係機関と連携した避難訓練等は、地域にある特別支援学校としてとても大切です。今後も関係機関との連携や保護者との意見交換を密にして、安心・安全な学校づくりをお願いします。

9 今年度も引き続き、学校医、学校歯科医、学校薬剤師等と連携・協働し、新型コロナウイルス感染症の発生や感染拡大のリスクを低減させるための対策を実行しました。

・教室の換気、手指消毒等の感染対策の他、都から支給された抗原検査キットを適宜利用し、感染症拡大防止対策と陽性者の早期発見に取り組んできました。今後も、継続的に感染症対策を行い、安心安全な学校運営をお願いします。

10 教職員が心身の健康を維持し、児童・生徒に向き合うことができるよう産業医、安全衛生委員会と連携し、「学校における働き方改革推進プラン」に基づく、教職員のライフ・ワーク・バランス推進のための対策を実行しました。

・より良い教育を実施するためには教職員に「ゆとり」があることがとても重要です。教職員の校務の精選を行い、

今後も継続してライフ・ワーク・バランスをより進めてください。

〈最後に〉

府中けやきの森学園は今年で開校 12 年目を迎えました。今年度より相賀校長先生が着任され、校内組織や校内環境の整備に加え、継続した学校経営方針である児童・生徒の QOL (Quality of Life:「生活の質」) の向上、安全・安心な学校づくりは府中けやきの森スタンダードとして定着しています。

今後も児童・生徒、保護者、地域の皆さんに取組を分かりやすく伝えつつ、更なる府中けやきの森学園の教育の充実を期待しています。以上、令和5年度、評価委員からの学校運営に係る提言とします。